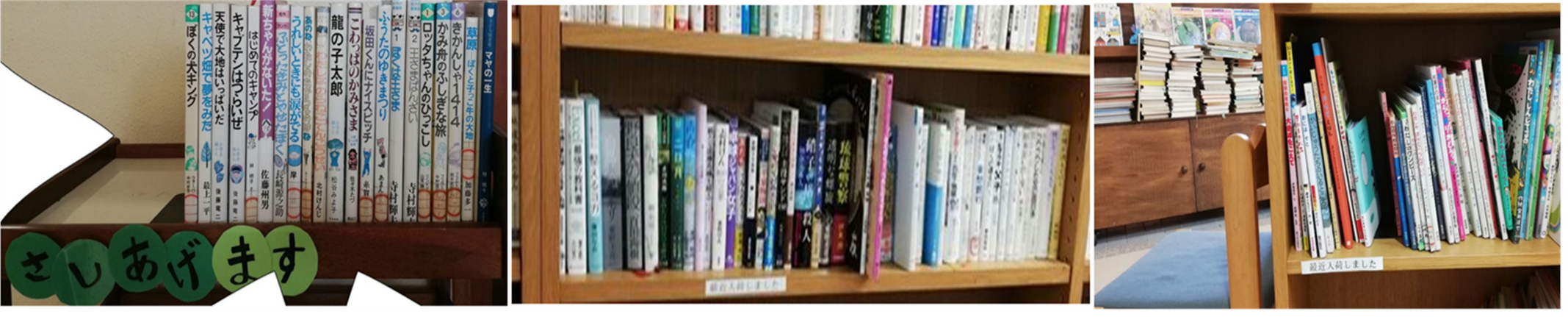


11月 としよしつだより



みなさんこんにちは、季節は秋となり夕刻になると少し肌寒くなっています。朝夕は気温が下がりますので注意して下さい。コロナ感染も縮小傾向です、、、もう少しの辛抱です。



- ①図書室入口にあるさしあげますコーナーのワゴンにある本です
- ②本棚に「最近入荷しました」の棚があります、、、借りてみては
- ③幼児用絵本の新書もありますよ

2カ月毎に本を新しくしていますので、ほしい本を探してください



内容 3歳から高学年まで長く使える本格宇宙図鑑
内容 宇宙はどんなすがたをしているのでしょうか？いつどのようにできて、未来はどうなるのでしょうか？



内容 表紙に描いた予知夢の真相
内容 漫画家を辞めた理由インド旅行が大きな転換点になった漫画の中に描いた大津波は2011年3月のことではない2025年7月に起こる大津波の後に訪れる新しい世界



内容 私たちは何者なのか。神話とともに誕生し、万世一系の天皇を中心に、独自の発展を遂げてきた、私たちの国・日本本書は2000年以上にわたる国民の歴史と激動にみちた国家の返還「一本の線」でつないだ、壮大なる叙事詩である！当代一のストーリーテラーが、平成最後の年に送り出す日本通史の決定版！



内容 本書は、Excel VBAの基本文法と自動化・効率化に役立つテクニックを、一冊でまとめてマスターしたい人のための解説書ですExcelの記録マクロの使い方と編集方法プロシージャ・オブジェクト・プロパティ・メソッドといったVBAの基本をていねいに解説

楚辺風土記③殿内家 (トゥンチャー)の新しい世界



殿内家 (トゥンチャー)
 今回紹介する殿内家も七御嶽 (ナノウタキ) の1つです。戦前は、村芝居を行うアシビナーの東端に約4坪の瓦屋根の建物があり、そこに石が3つ置かれ「字火の神」(あざひぬかん)が祀られていました(1948年写真参照)
 建物は失われ香炉のみが置かれていましたが、2010年に新たに祠を建てました。
 「殿内」(トゥンチ)とは、琉球王府時代、領地を治める役職「地頭」(じとう)の士族家呼び表す名称でした。王府時代、読谷村は「読谷山間切」(ヨミタンザマギリ)、字楚辺は「楚辺村」でした。楚辺村を治めたのが「楚辺地頭」です。地頭は普段首里で生活していますが、領地を訪れることもあったようでその時滞在したのが、この殿内家と考えられます。
 王府が解体され、地頭がいなくなった後もその地あるいは「地頭火の神」は神聖視され、他の字(地域)では地頭の屋敷跡に祠を設け現在も拝しているところもあります。



殿内家は旧集落の中心地に位置し、付近には「村屋」(字事務所)や「登殿内」(ヌンドンチ:字の祭祀を行うノロ家)などがあり、楚辺村にとって重要な場所であったことがうかがえます。

楚辺 自慢

楚辺体育振興会総合優勝



楚辺体育振興会が24年ぶりに総合優勝に輝きました。おめでとうございます。